

C 地質時代の区分

すでに絶滅している過去の生物の化石についても、相前後した時代の地層から産出し、互いによく似た形態をもつものの間では、先祖・子孫の関係(系統)を認めることができる。この関係を時代を追ってたどることで、生物の進化の道すがりが明らかにされてきた。約 46 億年におよぶ地球の歴史は、岩石の年代、地層の層序、そしてこのような生物の変遷に基づいて、図 24 のように区分されている。

5 億 4100 万年前から現在までを**顕生代**という。顕生代は化石の産出が豊富なので、主に化石から推定される生物の出現や絶滅の時期で地質時代の区分が決められている。

問 2 地球の誕生から現在までの約 46 億年を 1 年にみたて、各月を上旬・中旬・下旬に分けると、冥王代・太古代・原生代・顕生代の始まりは、それぞれいつ頃になるか。

時代区分	年代[年前]	生命史上の主なできごと	生物界
顕生代	第四紀 新第三紀 古第三紀	260万 2300万	哺乳類の時代
		・人類の出現	被子植物の時代
		・被子植物の多様化 ・哺乳類の発展	
	白亜紀 ジュラ紀 三畳紀(トリアス紀)	6600万 1億4500万 2億100万	脊椎動物の時代
		・恐竜・アンモナイトなどの絶滅 ・被子植物の出現	裸子植物の時代
		・鳥類の出現 ・爬虫類(恐竜)・アンモナイトの全盛	
		・原始的哺乳類の出現	
	ペルム紀(二畳紀) 石炭紀 デボン紀 シルル紀 オルビス紀 カンブリア紀	2億5200万 2億9900万 3億5900万 4億1900万 4億4300万 4億8500万 5億4100万	両生類の時代
		・サンヨウチュウ・フズリナ類などの絶滅 ・最古の爬虫類	シダ植物の時代
		・ロボク・リンボクなどシダ植物の繁栄	
		・脊椎動物の上陸(イクチオステガ)	
		・植物の上陸(クックソニア)	
		・最古の脊椎動物化石 ・爆発的な動物の進化	有殻無脊椎動物の時代
			藻類の時代
先カンブリア時代	原生代 太古代 冥王代	25億 40億 46億	無殻無脊椎動物の時代
		・多細胞生物の出現 ・酸素発生型光合成生物の出現 ・生命の誕生	

▶図 24 地質時代の区分